

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		西海市療育支援相談センター				公表日	令和8年3月10日
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		高学年以上のグループでは体格に比べ、部屋が狭くなってきている。プログラムを工夫しながら対応している。	今後もプログラムの工夫を行いながらサービスを提供していく。	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		必要時の個別対応等が取れるように配置している。	専門性も高めるためにも、研修等により参加し支援に返せるように体制整備に努める。		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		施設内はバリアフリー構造になっている。トイレや部屋の使用など、視覚的に分かりやすいようにパネルを掲示している。	個々に応じた必要な対応や環境整備に今後も努めていく。		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		高学年の利用児には、机やイスの大きさが身体に合っていないことがある。	座り方等、環境調整に配慮していく。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		活動の内容、またお子さんの状況に合わせて個別に対応できるよう空き部屋や空きスペースを使い対応している。	人員体制とも併せて、必要な個別対応ができる環境づくりに今後も努めていく。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		毎回利用児受け入れ前の打ち合わせ、実施後のふりかえり、定例のミーティングをおこなっている。	共通認識をもって業務に当たることができるように、今後も一人ひとりが意識できるよう努めていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年実施をし、業務改善のための資源としている。	今後も継続して実施していく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		それぞれが発信しやすい雰囲気、関係性づくりに努めている。	可能な限り職員それぞれの意見や考えを反映できるよう努めていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		第三者評価はおこなっておらず、直接的な評価は得ていないが、毎月市に実績や状況を報告している。	今後も連携と地域課題解決も併せて、実績報告や意見交換の場を継続していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		年に数回の所内研修を実施。また外部研修への参加を行っている。	直接支援にかかる体制を整備しながら、職員が積極的に研修に参加できる体制づくりに今後も努める。	
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		日々のプログラムは職員間で共有している。公表プログラムは法人HPIにて公開している。	今後もお子さんやグループの目標にそったプログラム作成を柔軟におこなっていく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		初回のアセスメント及び、保護者への聞き取り、本人の様子、発達検査の結果等から支援計画を立てるよう努めている。	保護者の方とのコミュニケーションを大切にしながら、成長・変化を共有しつつ支援をおこなっていく。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者が立案し、それをもとに協議しているが、現在はグループリーダーとの協議が主になっている。	極力、多くの職員の意見が計画書作成のプロセスに反映されるよう努める。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		口頭ではその都度共有されているが、書面では共有できていない。	利用児が多いため、書面での共有だと見落としも出るかと思われるので、適切に共有できる他の方法を検討していく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		定期的な発達評価（WISC等）と併せて、日々の療育の行動観察等から確認している。	今後も継続しておこなっていく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		各項目を踏まえ目標および支援内容を設定している。	継続してガイドラインに照らし合わせながら作成していく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		プログラム検討はチームで行っているが、グループリーダーが主軸を立案しているため、負担があるか。	職員間でうまく分担しながら、よりよいプログラムを立案していけるよう努める。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		グループや個々に応じて、目的をもって課題の内容や手立てを設定するよう努めている。	よりお子さんたちの課題にそったプログラムを実施していけるように研鑽を積む。	

提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		通常時に個別療育が必要なお子さんについては、記載をしている。	今後もアセスメントを適切に行い、保護者の方と共有しながら方針を考えていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		打ち合わせは必ず行っており、前回の反省やお子さんの目標を共有している。	前回の反省や気づき、支援のポイントを適切に共有できるようにする。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		打ち合わせ同様、ふりかえりを毎回必ず行い、課題や活動内容、職員の関わりについて見直しを行なっている。	お子さんの状況のみならず、適切なプログラムであったか、職員の動きがどうだったかなどにも時間をかけたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		個別記録を記載している。	簡潔かつ、より要点やポイントを的確に押さえた記録の書き方を検討していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		業務や保護者との時間調整のため、時間の確保が難しい時がある。	業務分担をしつつ、保護者との丁寧な面談の時間が確保できるよう努める。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		地域交流について実施形態上難しいが、その他3つについては踏まえながら支援を行なっている。	地域交流のあり方については事業所で取り組める形を今後も検討していく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		本人がどうありたいかなど、気持ちを確認しながらやりとりを行なうよう努めている。また特に高学年以上の児童についてはワークなどの活動を通して、自己受容や自己理解を促せるよう努めている。	今後も自己理解・自己決定の視点をもった支援のありかたを考えていく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		相談支援事業とは日常的に情報を共有している。関係機関との会議等は適宜担当の職員が参画している。	職員の専門性を高めていくために、必要に応じて多くの職員が携われるような体制づくりを行う。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保健師や福祉課とは定例の会議を開催。関係機関とは必要時に連絡や情報共有を行い、情報提供所等を作成するなどして連携に努めている。	地域支援の観点をもって、協力また啓発・発信に努めていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		必要時に、情報の共有を行い、また訪問支援を通じて共通理解を図っている。	訪問支援の体制整備も併せて、情報共有や相互理解に努めていきたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		適宜必要に応じて情報共有を行なっている。	今後も情報共有に努めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		情報提供書を作成し行なっている。	今後も情報共有に努めていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		日常的なやりとりはできていない。	必要に応じて、助言を得るなど連携を図れるようにする。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		事業所単位の活動的な交流はないが、利用児は地域の各園に在籍している。	実施形態上、今後も支援のなかでの交流は難しい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		管理者が参加しているが、協議会自体の開催が少ない。	必要な地域課題等を発信し、会議の開催につなげられるよう努めていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		ふりかえりや隙間の時間を利用し、共通理解を図れるよう努めている。	時間の確保が難しいことも多いため、できるだけ丁寧なやりとりができるように心がけたい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		療育中の勉強会や、交流会等の機会を設けている。	保護者の方のご意見・ご要望を伺いながら、今後も実施していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		新規契約時に行っている。	保護者の方の疑問点等が残らないよう、説明に努めていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談や書面を通して、極力保護者の方の想いや考えを汲みこめるような工夫をしている。	より丁寧な対応ができるように時間の確保など、体制づくりに努める。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		支援計画をお返しする際に、書面と口頭にて行なっている。	作成に時間を要しているため、作成のための体制づくりをおこなっていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者の方から発信があった際には対応できるように努めている。	職員からも極力声をかけられるように努めていく。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		ミニ勉強会や全体勉強会、交流会の実施に努めている。	きょうだい児の交流はできておらず、実施するには検討が必要。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		保護者の方から発信があった際には対応できるように努めている。	職員からも極力声をかけられるように努めていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月通信を発行している。また、LINEを活用し必要な伝達や連絡を行うようにしている。	活動内容等の情報発信の在り方は今後検討していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		書類やデータの管理、また情報の開示等には細心の注意を払うよう努めている。	研修やミーティングにて、職員間の周知徹底に努めていく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		お子さんに対しては絵カード等を積極的に使うようにしている。また保護者の方とも、必要に応じて書面を提示しお話をよう努めている。	職員が共通理解して必要な支援・配慮ができるよう、連携体制を取る。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		対外的な行事の実施は行っていない。	対外向けの研修会等の開催を検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルはあるが、詳細すべてを職員全員が把握はできていない。	定期的に職員と確認する機会を設けつつ、保護者とも共有できる方法を検討する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		防災訓練を行なっている。	定期的に職員間で共有し、適宜内容の見直しを行っていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		保護者への聞き取りにて把握している。	必要に応じ、医療との連携を行っていく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		基本的に食事提供等はおこなっていないため、保護者からの聞き取りにて把握、対応している。	今後も必要に応じ、医療との連携をおこなっていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全についてはその都度予測される状況等を予見しながら対応するようにしている。また環境整備に努めている。	日々の点検等に努めていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全への配慮は行っているが、計画の具体的な内容までは保護者と共有はおこなっていない。	保護者との共有の在り方について検討していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		活動中の小さな怪我等については保護者とその場で共有、また口頭にて職員間で共有している。アクシデントや事故があった際には報告書を	ケガ等に対して迅速に対応し、再発防止に随時努めていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年に1回研修を行っている	それぞれの支援の在り方について見直しができるよう、様々な内容を取り入れながら研修を行っていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		必要がある場合に記載し、保護者と共有している。	今後も保護者の方との共有や対話を確実にしながら、必要に応じて対応していく。	